

## 身近な地域の調査



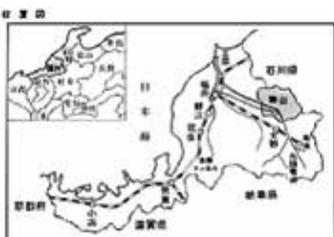
わたしたちは、小学校時代から校区調べや町探検を通して、身近な地域に親しんできました。しかし、まだ知らないことや地域が変わったため、新しい発見があるかもしれません。そこで、中学校では、自分で関心のあるテーマに視点を当てて、実際にその場に行って、見たり、聞いたり、記録したりする調査をしましょう。

そして、調査の結果をわかりやすくまとめて、いろいろな方法で発表してみましょう。



## 1 身近な地域を 見直そう

▲  
日ごろあたりまえにくらしている身近な地域を、改めて中学生の目で見直してみましよう。



## 身近な地域再発見

勝山市にくらしているみさえさんとよしきさんは、前ページの勝山市の市街地の写真を見て、クラスでいろいろなことを話し合いました。

「大きな川が流れているね。川の流れる地形や人々の生活にどのように関わっているのだろう。」

「緑が多く、自然が豊富だけれど、市域に住む人々はどんな生活を送っているのだろう。」

そこで、身近にくらす地域が、どのような特徴を持った町なのかを考えてみることにしました。

まず、現在の勝山市の地図を見てみることにしました。

## Check Up

地形図は、実際の地形や土地利用、建築物などさまざまな情報が、地図の約束ごとによって描かれています。地形図を読むためのルールがわかれば、そこからたくさんの情報を得ることができま

土地利用	建物・施設	道路・鉄道・境界
田	建物 (中高層建物)	2車線道路
畑	建物密集地 (中高層建築街)	軽鉄道
果樹園	市役所 東京都の区役所	徒歩道
くわ畑	町・村役場 (指定都市の区役所)	国道および 路線番号
茶畑	図書館	有料道路および 料金所
広葉樹林	血 博物館・美術館	普通鉄道 (JR線)
針葉樹林	記念碑	都・府・県界
竹林	風車	北海道の支庁界
ささ地	城跡	都・市界, 東京都の区界
荒地	史跡・名勝・ 天然記念物	町・村界, 指定都市の区界
	墓 墓	
	△ 三角点	
	□ 水準点	
	◇ 灯台	
	↓ 漁港	

### ●地形図の読み方

- ①地形図の縮尺を確認する。
- ②等高線の様子から、地形の特色を読む。
- ③自然の地形と市街地、交通路などとの関係をつかむ。
- ④地形と土地利用との関係をつかむ。(土地利用別に着色するとよい。)
- ⑤古い絵図や地図と比較することで、地名と地域の歴史的变化を知り読み取る。(幕末勝山町図、昭和33年地形図、平成10年地形図)

### 地形図の見方

地図には、等高線や土地利用などの情報が多面的に表現されています。地形図には5万分の1や2万5千分の1といった、縮尺の違ういくつかの種類があります。

よしきさんたちは、他の市の地形図などとも比較しながら、勝山市の特色を読み取ってみることにしました。

## ためしてみよう

①次の場所の位置を確認して、○で囲みましょう。

{ 自宅、市役所、勝山橋、市立図書館、長尾山、平泉寺 }

②海拔100メートルを赤、200メートルを緑でたどってみましょう。

③九頭竜川とそれに流れ込む次の川の流れを、青鉛筆でたどってみましょう。

九頭竜川右岸

女神川、浄土寺川、暮見川、滝波川、皿川、岩屋川

九頭竜川左岸

鹿谷川

④土地利用の様子を見て、気がついたことをそれぞれ出し合ってみましょう。

【どこで、どのような農産物がつくられているでしょう】

【市街地はどこからどのように広がっているでしょう】

【どのあたりに工場があり、どのように位置しているでしょう】

## ◎地図からわかる勝山市の特色

- ・市街地の中心部は河岸段丘上に形成され、段丘崖を境に上部にはかつて城跡もあった。下部には商家が立ち並び城下町として発展していた。両地域はたくさんの坂道でつながっていた。
- ・市街地周辺の地域には扇状地が広がり、田畑に利用されている。
- ・近年、数カ所に工業団地がつくられ、企業の誘致が行われている。

## 恐竜溪谷ふくい 勝山ジオパーク

## ジオパークって何？

ジオパークとは、ヨーロッパで始まった地質遺産（例えば、恐竜の化石が見つかる地層や火山の噴火でできた地形などの地球のダイナミックな活動を教えてくれる遺産）などの保全と活用を図るプログラムです。2004年にヨーロッパと中国が中心となって「世界ジオパークネットワーク」が設立され、2015年にはユネスコ



の正式プログラムとなりました。その目的は国際的に価値のある地質遺産を保護し、そうした地質遺産がもたらした自然環境や地域の文化への理解を深め、科学研究や教育、地域振興等に活用することにより、自然と人間との共生および持続可能な開発を実現することです。ユネスコ世界ジオパークには2023年5月現在、48カ国、195の地域が認定されています。日本からは10地域（洞爺湖有珠山、糸魚川、島原半島、山陰海岸、室戸、隠岐、阿蘇、アポイ岳、伊豆半島、白山手取川）が認定されています。

一方で、日本ジオパークは、国内版のジオパークですが、ユネスコ世界ジオパークと同じ理念の元、活動をしています。2023年5月現在、46地域が日本ジオパーク認定されています。ジオパークは、4年に一度の再認定審査があり、活動の質を保ち、さらに向上させていくことが求められます。

参考ホームページ

- ・ [世界ジオパークネットワーク（英語）](#)
- ・ [日本ジオパークネットワーク](#)

---

## 恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク

---



勝山市全域をエリアとする恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークは、2009年に認定されました。「恐竜はどこにいたのか？大地が動き大陸から勝山へ」をメインテーマとし、その大地には、恐竜が暮らした大陸の時代から日本海が形成され現在に至るまでのダイナミックな地球の歴史が記録されています。このメインテーマのもとに、「恐竜・恐竜化石」、「火山と火山活動」、「九頭竜川などの河川とその地形」という3つのサブテーマを設けています。

現在、恐竜化石の産出で有名な勝山ですが、平



写真①  
恐竜化石発掘地（北谷町杉山）

成元年（1989）からの北谷町杉山において、福井県により本格的な発掘調査が始められました（写真①）。第1次～第4次調査が続けられていて、次々と恐竜などの化石が発見されています。これまでに6種類（化石鳥類を含む）の新種の恐竜がこの発掘現場から発見されています（日本全体でも10種のみ）。この恐竜化石の見つかる地層（手取層群北谷層）は、約1億2000万年前（白亜紀前期）の地層です。このころは、まだ日本列島は存在せず、大陸の一部でした。大陸を流れていた河川によって周辺でくらしていた恐竜が土砂に埋まり、地層となったものです。

その大陸でできた地層がどのように今の勝山までやってきたのでしょうか。それを引き起こしたのは、今から約2000万年前からユーラシア大陸の東の縁で起こった大地の大変動です。大地がさけたのです。さけた大地は約1200万年前に現在の日本列島の位置まで至ったと考えられています。このように、勝山で見つかる恐竜は現在の勝山で暮らしたわけではなく、日本列島ができるときに地層に埋まった化石として運ばれてきたのです。

ユーラシア大陸の東のへりでは、海のプレートが大陸のプレートの下に沈み込んでいます。現在もそうですが、このような場所では活発な火山活動が見られます。勝山においても、白亜紀後期（恐竜時代終わり）、新第三紀（日本海の形成時）、第四紀（勝山の北部から東部の山）の火山活動の痕跡を地層（一部は地形）として見ることができます（写真②）。これらの火山活動にともなう堆積物によって手取層群は覆い隠されました。このままでは、手取層群は厚い火山の地層に覆われたままです。恐竜化石の発見に最後に大きな役割をはたしたのが河川です。ジオパークのエリア内の手取層群は、九頭竜川の支流の谷に沿って露出しています。つまり河川の浸食が、火山性の堆積物を浸食



写真②  
大矢谷白山神社の巨大岩塊  
（経ヶ岳火山の痕跡）



写真③  
越前甲から見た勝山の平野部

し、手取層群をはじめて地表に露出させたのです。現在、恐竜の町勝山といわれるようになった背景には、以上のような大地の活動があったのです。

その後も大地は活動を続けます。山間部で大地を侵食した河川は、流れの弱くなる平野に至ると土砂を堆積します。これを繰り返すことによってできたのが勝山の平野なのです（写真③）。河岸段丘を利用した村が町へ、そして江戸時代には城下町へと発展していきます。そこには勝山独特の文化がはぐくまれ、地形と気候にそくした産業が生み出されました。タバコ産業、繊維産業が盛んとなり人々の暮らしをささえ、近代勝山の土台が築かれました。

一方で、地球は時々人間にきばをむくときがあります。特に日本列島は、世界的に見ると温暖で湿潤な気候であるため、毎年たくさんの雨が降ります。それに伴い、河川の氾濫や土砂災害が毎年はんらんのように起こります。また、4枚のプレートの境界に位置している日本は、世界の火山・地震大国でもあります。そのため、日本ではこれまでに多くの自然災害が起こっています。勝山でも大雨や土石流、河川の氾濫、大雪といった自然災害を経験しています。自然の恩恵を受けながら、自然災害にあらがいながら、さらに地球環境を守りながら生きていくためには、常に考え続けることが求められています。

皆さんのくらす勝山にはこのようなダイナミックな地球の活動の痕跡こんせきが隠れています。またこれらの活動は、現在の生態系や人々の文化にも大きな影響を与えています。ぜひさまざまなところに出かけて、大地と自然と人のつながりを学んでみてください。さらに、自分たちの地域を知った上で、他のジオパークを訪れ、自分たちの地域との共通点や違いを知ることで、世界の多様性を感じてください。

## 2

### 調査テーマを決めて、見通しを立てよう

▲ 調査をするときのテーマの決め方を考えてみましょう。

### 調べてみたいことを探す

よしきさんたちは、地形図で勝山市の様子を見た後、自分がくらしている地域で、他の地域にないと思われるところや、興味や関心のあるところ、疑問があるところなどについて、みんなでお話し合ってみました。

そして、出されたことを、次のように分けて書き出してみました。

#### 調べたいこと

- 勝山の地形や町の様子、町の変化について
  - ・勝山大用水はどこから流れてくるのか。
  - ・変わった地名が多いので、その起源を調べてみたい。
  - ・本町商店街に空き家が見られるが、商店街がこのような状況になった原因について調べてみたい。
  - ・中心街を囲むように大きな道路が整備されているが、道路建設と町の発展の関わりについて調べてみたい。
  
- 勝山の気候の特色と人々のくらしや産業について
  - ・勝山の特産物について調べてみたい。
  - ・勝山の観光地について調べてみたい。
  - ・勝山の伝統行事とその起源について調べてみたい。
  - ・大雪が降る原因について調べてみたい。

## 調査テーマを決める

各グループで、実際に調べたいテーマについて、話し合いました。

みんなの興味や関心が高く、手に入りやすい資料がある6つのテーマにしぼり、調べる内容を決めました。

### ◎各班の調査テーマ

### ○調べる内容

1班：河川・用水・ため池と私たちの暮らし

・・・つくられた歴史、分布、現在の活用状況

2班：地域の歴史ストーリーとその特色

・・・形成された歴史、発掘調査、発見された資料

3班：勝山の気候と暮らし・・・勝山の1年間の気候、雪との上手な付き合い方

4班：勝山の伝統と観光行事・・・観光地、伝統行事の紹介、勝山の魅力

5班：勝山の特産物・・・種類、分布、農作業暦、工夫と苦労

6班：開発計画と生活の変化・・・勝山の都市計画の歴史

## Check Up

調査テーマが決まったら、次のことに注意しながら、調査活動を進めていきましょう。

①テーマに従って、調べる目的と内容をはっきりさせ、調査が終わった後の結果を予想する。

②テーマによって、どのような調査方法が適切かを考えて、計画を立てる。  
・文献・資料調査・・・図書館や博物館などで、必要な本や現物資料を見て調べる。

・校外調査・・・校外に出かけて、地形や土地利用、建築物などの観察をし、気がついたことを記録する。  
(写真・ビデオ・スケッチ・測定)

・聞き取り調査・・・事前に約束をして、役所や農協、商店、農家などを訪ねて話を聞く。